平和の大切さ

伊勢原中学校　石原　蒼大

今、僕達は日本という国で暮らしています。この日本では、暴力による大きな争いなどは長い間起こっていません。毎日が平和です。しかし、外国では違います。地域紛争や内戦が起こっていて、平和とは言えない国もたくさんあるのです。例えば、ロシアとウクライナです。ここでは戦争が起きていて、ロシアが飛ばしたミサイルでウクライナの建物がたくさん破壊されたり、子ども達が連れ去られたり、多くの被害と犠牲者がでています。この戦争が始まってから約３ 年経っていて、今もまだ続いています。ニュースで流れる被害の様子や国外への避難を迫られる人達を見ていると、自分達が当たり前のように過ごしている日常が当たり前ではないのだと実感させられます。

僕は１年前、広島へ旅行に行きました。平和記念資料館や原爆ドームなど、平和に関係する施設を見学しました。資料館には、被爆した当時の写真や遺物が置いてあり、その中にはトラウマになりそうなほど悲惨な写真や、まだ小さな子どもが使っていた弁当箱などもありました。これを見て、被爆直前まで普通の日常を過ごしていた子どもの様子を想像し、とても悲しい気持ちになりました。原爆ドームは、建物のいろいろな所が破壊されていて、昔の形を想像することなどできませんでした。もともと原爆ドームは広島県物産陳列館という名前で１９１５年に建設され、広島の物産品を展示したり販売したりする場所でした。インターネットで調べたところ、被爆時にこの中にいた人は全員即死で、建物は爆風と熱線によって今の形になってしまったそうです。資料館に人の影がうつった石があり、原爆ドームにいた人の跡と聞きました。

広島に行った時、先程のウクライナの戦争やイスラエルの戦争が起こっていたので、平和について考える良い機会になりました。平和とは、戦争がないことはもちろん、全員が安心して穏やかに暮らせる社会のことだと感じました。戦争がなくても、テロなどの人が死んでしまう事件が多発していたり、貧困や飢餓などの問題があったりす

ると、人々は安心して生活することができません。たくさんの命が危険にさらされ、苦しむ人がいるという点では、戦争と同じです。広島での旅行を通して、平和の大切さを改めて実感しました。何でもない普通の日常こそが大切で、それを支えているのが「平和」です。大切なものを守るためにあるものを大切にしなければ、本当に大切な物を得ることはできません。だからこそ、平和は何よりも大切なのです。しかし、今も世界では戦争や社会問題で辛い目にあっている人がたくさんいます。平和になるため、また平和を維持するためには何をすれば良いのでしょうか。まずは身の周りの人への思いやりの気持ちだと思います。少しイライラしてしまうことや、不快になるようなことをされても、感情的にならないで自分の思うことをしっかり相手に伝えることが大事です。もちろん、自分自身が相手の嫌がることをするのもいけません。また、違う意見を持っている人を認めることも大事です。そんな人とぶつかることがあっても、お互いの意見を伝え合い、話し合えば、小さいけんかや争いを防ぐことができると思います。このように、最初は友達や家族などのせまい範囲で無駄な争いを少なくしていけば、それがどんどん広く広がっていくと思います。そうなれば、貧困や飢餓などの問題に関心を持つ人も増えて、みんなでそれを解決していけるかもしれません。まずは僕自身が人を思いやって、世界中に平和の大切さと素晴らしさを伝えていく一人になりたいです。